

## 19年度の主な取り組みと第22回全国総会へ向けての課題

2020年7月13日、14日、16日

電話会議

19年度第1回拡大支部協代表者会議で今年度の具体的な取り組みを確認し、各種取り組みをスタートしました。その矢先、新型コロナウイルスが全国的に感染拡大し、パンデミック宣言、緊急事態宣言が出され、ブロック会議、全国交流集会、沖縄ピースすてーじ、広島ピースフォーラム、長崎平和フォーラムは、感染拡大防止のため中止されました。本日の19年度第2回拡大支部協代表者会議も5月下旬開催から書面と電話による会議へと変更いたしました。

また、支部協についても、各種行事、レク、幹事会等が中止や延期、開催方法の変更を余儀なくされているものと認識しています。

こうした厳しい環境のもと、安全・健康確保を基本に支部協として業務運営に取り組まれている支部協役員の皆様に敬意を表します。

### 1. 拡大支部協代表者会議

第21回全国総会の決定に基づき、昨年11月27日～28日にかけて開催した、第一回の拡大支部協代表者会議で今年度の方針の具体化を五点について提案しました。①「東日本大震災」をはじめとする自然災害からの復興支援と風化防止の取り組み②ブロック会議の議題として、「会」と「会員」とのコミュニケーションの充実、参議院議員選挙の取り組み状況、投票動向調査結果、会員拡大、AP21など。③平和四行動の日程、場所、参加支部協、④全国交流集会の日程、参加対象、人数⑤第2回拡大支部協代表者会議の日程等について意思統一を図りました。

### 2. 核兵器廃絶1000万署名

(1) 「核兵器廃絶1000万署名」の取り組みについては、第21回全国総会において、2020年春に国連で開催される核兵器不拡散条約再検討会議に向け、日本退職者連合と連携し、核兵器のない世界の実現を願う思いを届ける「連合・核兵器廃絶1000万署名」について組織をあげて積極的に取り組むことを意思統一しました。

具体的には、会員一人2名以上の署名とし、NTT労組退職者の会で20万筆以上を目標とし、退職者連合全体では150万筆を目指すこ

## 19年度第2回拡大支部協代表者会議資料

としました。

これを受け、各支部協での取組みが開始されましたが、結果として前回（2015年）の署名数（16万1679筆）を下回る16万489筆となり、20万筆には届きませんでした。が、（別紙「核兵器廃絶1000万署名集約」）台風15号、19号等による被災者支援カンパの取組みと重なる中での結果であり、敬意を表します。

- (2) 取組み状況と課題については、目標の一人2名以上の署名数 200%を超えた支部協は9支部協。中でも和歌山支部協は群を抜いて340%。目標を達成した支部協では、地区協での手配りと回収、未提出者への電話要請、各種行事での要請等、手厚い取組みが目標の200%に繋がったと推察します。会員比率100%を超えた支部協は27支部協で、目標の200%達成した支部協と合わせると36支部協となり、全体の会員数からすれば127%の集約率になります。

しかし、5年前より10727人多い会員数で2106筆数を下回ったことは課題を残す結果となりました。

課題としては、会員の高齢化により、①郵便物を読まない、②返信を忘れてしまう、③関心がなくなっている、④施設へ入所等、⑤電話での要請については、詐欺被害に遭わないため電話に出ない等の理由が挙げられています。ただ、核兵器廃絶への会員の思いを最大限くみ上げる手を尽くした取組みが求められているといえます。

- (3) また、4月27日～5月22日に予定されていた、核拡散防止条約（NPT）再検討会議については、新型コロナウイルスの感染拡大を受け延期されましたが、集めた署名は連合から日本政府、国連に提出し、核兵器保有国への国際的な働きかけを続けていきます。また、今後も核兵器の削減・廃絶と核兵器開発の中止を訴える行動に参加していきます。

### 3. 台風15号、19号等の大規模自然災害に対する被災者支援カンパ

昨年6月下旬から10月中旬にかけて暴風雨を伴う大型台風が次々と日本列島に上陸し、河川の氾濫、決壊による家屋損壊、浸水、土砂災害等各地に甚大な被害をもたらしました。

NTT労組と退職者の会は、この間の激甚災害に指定された大規模自然災害で被災された組合員、退職者の会会員等に対し、被災者支援カンパを取り組むこととしました。

退職者の会は、2458万8745円を集約いたしました。取組みに謝申し上げます。NTT労組の3642万6981円と合わせ6101万57

## 1 9年度第2回拡大支部協代表者会議資料

26万円のカンパ金を集約し、見舞金として被災者へお届けいたしました。その際、組織指導に問題があり支部協にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

カンパ残金については、NTT 労組が地震、風水害等の激甚災害指定の大規模自然災害での被災者支援に活用する目的で「NTT 労組災害対策基金」を創設しますので、退職者の会としても現・退一致で取り組むこととします。

### 4. 電気通信共済会社員選挙

電気通信共済会の社員選挙については、NTT 労組および退職者の会が推薦した候補者全員が当選を果たしました。各支部協においても支部協ニュース等で推薦候補者の支援と投票呼びかけを積極的に取り組んだ成果であり、敬意とお礼を申し上げます。

### 5. その他

## 二、支部協の活動実態と全国総会へ向けての課題

《1》「会」と「会員」とのコミュニケーションの充実について

### (1) 支部協等の主な取り組み

常駐体制は、週5日体制26支部協、週3日は20支部協、週4日が1支部協。

会員からの主な問い合わせ等内容は、生協関係、法律相談、イベントの日程、住所変更、訃報連絡等

#### ① 地域活動の充実・強化

地区協等組織が結成されている支部協は35。しかし、地区協等の地域組織は作っていないものの、県内各地域にブロック、地区担当役員、班長等を配置し、工夫した組織運営を行なっている支部協も多い。

#### ② 会員とのコミュニケーションの拡大

- ・支部協総会は、全員対象が24支部協、代議員制は23支部協。参加者は平均106人。地区協等の総会参加者も多数。
- ・行事、レク活動への参加は、支部協と地区協を合わせ563の企画に対し、25,386人が参加。(両方の参加者もいる)全会員数の20.2%の参加率。会と会員との双方向コミュニケーションに大きな役割を果たしている。

③ 会員との総対話活動

総会、レク、サークル活動、地区交流会等の他、「お元気コール」や「会員宅訪問」により、直接行事に参加出なかった会員へのコミュニケーション活動の努力が行われています。「お元気コール」は約4割の支部協、「会員宅訪問」は約5割の支部協で実施されています。特徴的なものを列挙すれば①一人暮らし会員宅訪問②80歳以上の会員訪問(健康状況の聞き取り)③元気確認④総会欠席者を訪問⑤喜寿会員⑥生協加入促進時⑦高齢者・恒常的行事不参加者⑧3年ごとに生活実態調査⑨100歳越え会員⑩緊急連絡先把握現行維持化など

④ 機関誌の発行状況およびホームページの開設状況

コミュニケーションツールの重要な機関誌の発行状況は、多い支部協で年12回が1支部協、少ないのは年1回1支部協。もっとも発行周期が多い年4回で25支部協。年3回が6支部協。年2回が5支部協となっています。支部協機関誌の手配りは20支部協。

地区協機関誌は、122の地区協で発行され、15支部協の地区協での手配り率は74%となっています。

この手配り体制は、単に機関誌を配布するだけでなく、会員とのコミュニケーションを通じて本人の健康状態、家族状況、会に対する意見・要望、施設への入居、転居など多くの情報が把握でき、災害時の安否確認、選挙時の対応などに大きな役割を果たしています。懸命に取り組んでいる支部協、地区協の皆さんに心より敬意を表します。

また、もう一つの重要なツールとして、支部協におけるホームページの開設状況は、19支部協となりました。内容は、行事、レク、サークル活動、ボランティア活動などが生き生きと紹介されています。

⑤ 女性会員の活動への参加・参画の現状

- ・支部協主催のイベント等の参加状況は、147の企画に全体で10,368人が参加し、そのうち女性の参加は、3045人で参加率は29.4%。地区協等のレク、サークル活動への参加状況は、416の企画に対し全体で15018人参加し、そ

## 19年度第2回拡大支部協代表者会議資料

のうち女性の参加は4621人であり参加率は30.8%となっています。

- ・女性主体のサークル活動は、手芸クラブやフラダンス、編み物など女性の特技を生かして30支部協で112のサークルが結成され、会員数は1,713人、うち女性は1,334人、77.9%となっています。
- ・女性会員を幹事や三役に登用し、女性会員が参加しやすい環境を整え活動が活性化している支部協は着実に増加しつつありますが、支部協役員比率は21.2%であり、女性会員比率まで高めていくことが支部協の一層の活性化につながると認識します。

### (2) 課題認識として

- ①総会、行事、レク・サークル活動等のイベントが活性化している一方、参加者の固定化と若年会員の参加が少ない。
- ②役員のみならず手不足と女性役員の減少。
- ③女性会員の活動参加へ向け、女性が参加しやすいサークルの立ち上げと中心となる会員の育成
- ④一人暮らしの高齢会員への対応

## 《2》 会員拡大について

本年3月末退職者への会員拡大の取り組みは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、退職説明会を中止せざるを得ない支部協もありましたが、全国で142回の退職説明会が行われ2,910名が新規会員となりました。(電通共済生協データ)支部協の取り組みに感謝申し上げます。

しかし、昨年から926名の減少となりました。これは50歳以上の3月末退職者が例年より約1,200人減少し、5,067人だったことが大きな要因と考えられます。(昨年までの50歳以上3月末退職者は、この5年間で約7,000人～6,200人ぐらいの中で推移しており、約4,200人～3,800人ぐらいの会員増加となっていました)

今後の65歳年度末退職予定者数の動向を注視しなければなりません。また、年間を通じた全体的な加入人数、加入率は、毎年、定点観測として、11月の拡大支部協代表者会議で報告していますが、新規会員の大半が加入する3月の年度末退職者の加入率が年々減傾向にあり、企業本部間の加入率のバラツキ、3月末以外の退職者への加入勧奨、管

## 19年度第2回拡大支部協代表者会議資料

理職層への働きかけ等の課題も含め、NTT 労組と連携を強化していくこととします。

### 《3》災害時等緊急連絡体制について

- (1) 災害時等における緊急連絡体制については、15年度の全国総会での意思統一以降、頻発する大規模自然災害もあり各支部協の取り組みは、年々進んでいます。災害時の緊急連絡先(携帯電話を含む)把握率は、39支部協から報告され把握した会員数77,309人、61.5%と初めて数値が明らかになりました。
- (2) 緊急連絡先のデータベース管理は、報告があった40支部協の内「生協データと独自データ併用」17支部協、「独自データ」で管理が23支部協となっています。
- (3) 緊急時の連絡体制と連絡網は全ての支部協でおおむね確立されています。沖縄支部協からは、生協データに基づく独自の緊急連絡体制を作成中。地図アプリを活用した会員の住所をプロットしていることが報告されています。

### 《4》第25回参議院議員選挙の取り組み状況と課題について

「吉川さおり」が当選を果たした第25回参議院議員選挙から約一年が経過しました。退職者の会としても、取り組みにおける、情宣活動、支持者カード、紹介者カード、会員との総対話、パンフなどグッズ等、投票動向調査結果報告も含め課題等について次期参議院議員選挙の取り組みへ活かすため、19年度のブロック会議で論議することとしていました。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、19年度のブロック会議を中止せざるを得ませんでした。

以下、記載した内容は、支部協からの報告をベースに中央協の考え方も含め、取り組み状況と課題について提起しました。

また、地域における次期国政選挙状況についても情報共有を図ることができ感謝申し上げます。(記載は省略)

#### (1) 参議院議員選挙取り組み状況

##### ① 支持者カード・紹介者カードの取り組みと回収について

支部協からの意見提起受け、支持者と紹介者を一枚で記入できる様式に変更し(福岡・鹿児島方式を参考)訪問や郵送、イベント等の地域実態に合った取り組みを各支部協に要請しました。

## 19年度第2回拡大支部協代表者会議資料

支部協は、創意工夫して各種取り組みを展開したものの、「吉川さおり」の知名度は高いが、回収率は全体として、ほぼ前回と同様の32.7%となりました。

低回収率の要因として、

- ・地区協ごとに会報の手配りと合わせ要請を実施したが、在宅率が低く再訪問に稼働がかかる。
- ・会員宅に要請文とカードと返信封筒を同封して郵送し、未提出者へは、電話対応や再郵送をしたが、電話は不出多い等の理由が挙げられている。
- ・取り組みのタイミングが早すぎる（回収期限とのギャップ）

一方、回収率が上がった要因として

- ・カード未提出会員へ地区協が主体的に、訪問を重ねたこと。
- ・地区協と支部協がセットで訪問した。

### ② 取り組みツールとしての号外、リーフレット等資材について

ほとんどの支部協は、知名度、政策等の浸透を深めることと投票につなげるために、様々な機会をとらえ、有効に活用した。

主な活用方法

- ・訪問時や支部協・地区協の会報とセットで手配りや発送。
- ・支部協や地区協主催の集会・イベント等で配布し、浸透を図った。

資材についての課題

- ・訪問時のツール(リーフレット、名刺等)が不足した。
- ・支持者カード等の不足で、自前のコピーで対応した。
- ・グッズは、予備を含めて会員3割増での配布。
- ・支部協等ニュースに同封するため、リーフ、名詞、号外等の資材発送スケジュールを事前に周知を。

### ③ 4月の統一自治体選挙→7月の吉川選挙へ相乗効果について

統一自治体選挙で、組織内・重点・政策議員候補を擁立している支部協は現役と連携し、訪問・電話等で「吉川さおり」につなげる取り組みを展開した。その成果が、獲得票にも反映している。

主な取り組み

- ・現役と連携し組織内候補や推薦候補と共に会員宅を訪問し、同時に「吉川さおり」の浸透を図り、不在宅へはリーフレットの投函、電話で対応。
- ・現役と連携し、「グル連ニュース」等を会員へ発送、浸透をはかった。
- ・限られた地域ではあるが、集会を「吉川さおり」と組織内議員がセットで開催。
- ・組織内議員等選挙地域では、支部協役員、地区協役員等の活動もあり、他

## 19年度第2回拡大支部協代表者会議資料

- 地域よりも「吉川さおり」の得票率が高く、一定の役割を果たした。
- ・ 一方で推薦候補者が国民民主党所属だったので、「吉川さおり」との相乗効果は困難性があり、取り組みづらかった。

### ④ 会員とのコミュニケーションの充実を図る「会員宅訪問」「お元気コール」等は、「吉川さおり」への投票行動につながったのか

各支部協とも、体制確立と合わせ、投票日までスケジュールを作成し、訪問・電話・イベント等の取り組みを効果的に展開した。

主な取り組みと課題

- ・ 会員宅訪問・お元気ですかコール・各種行事での取り組みが、「吉川さおり」への投票行動につながった。
- ・ 生協加入者促進活動とあわせ「会員宅訪問とお元気ですかコール」を実施し、会員への浸透を図った。
- ・ 地区には、現役が少なく、会が中心となり訪問活動等実施。
- ・ 会員宅訪問時、高齢者会員から、「交通手段がない、病気がち」で投票場に行けないとの声が聞かれた。課題として受け止める必要がある。
- ・ 電話対応では、非通知だと電話に出ないケース(詐欺防止)や高齢化で電話に出るのが面倒、施設入所等により従来のような効果は期待できない。

### ⑤ 紹介者カードは今回より、支部協内で電話対応等の自己完結の取り組みとしたが、実施状況について。

自己完結型に対する理解は高く、会と現役が連携し、電話中心に支持拡大に取り組んだ。概ね紹介者カードの自己完結方式は、良かった。との評価。

主な取り組み状況

- ・ 紹介者への浸透・支持を広げるため、全紹介者に「吉川さおり」後援会リーフレットの郵送と公示前後に電話対応を行った。
  - ・ 電話で期日前投票の案内と棄権防止の働きかけを行った。
  - ・ 電話等で選挙区と比例区「吉川さおり」セットで実施した。
  - ・ 役割分担し、会としては、会員宅への電話を主とし、「紹介者カード」は現役が対応した。
  - ・ 電話対応は、会と現役が役割分担し、昼間帯は会で夜間は現役が行った。
- ### ⑥ 支部協からの全般の取り組みを通じての主な意見、課題について
- ・ 候補者の各県域訪問は、選挙年の前々年、前年から計画的に実施すべき。
  - ・ 候補者の活動が見える号外を年間通してタイムリーに支部協へ。
  - ・ 支持者、紹介者カードの回収率が低調。それに代わるものの検討を。
  - ・ 現役の活動が弱い。現・退の役割の明確化が必要。
  - ・ 名前を書く選挙の更なる徹底を。



《5》アピール21について

取り組みについては、1月から12月までとし全会員を対象に各支部協で取り組みしていることに感謝申し上げます。ブロック会議で報告することとしていました前年度の加入数は、一昨年より42人増加し5,597人となりました。各支部協の取り組みに感謝申し上げます。

今年度は、各支部協において、新型コロナウイルス感染拡大防止により、レク、バス旅行、サークル活動等が中止、延期、自粛等になり、例年のようなアピール21の加入勧奨活動が困難な状況と推察します。

従いまして、今年度は可能な範疇での取り組みをお願いします。

《6》退職者連合への産別としての加盟について

情報労連は、一年間の検討を経て退職者連合へ産別として加盟していく方針を第59回定期大会で決定しました。中央協はこの決定を踏まえ、情報労連と必要な対応をしていくこととします。

《7》その他

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止により、中央協が主催する会議、研修が中止や延期となり支部協との直接コミュニケーションがとりにくい状況となりました。今後もそうした事態が想定され、その場合はウェブ会議の開催を実施したく、今年度限りの措置として、支部協の通信環境整備費として30万円を交付します。

以 上